

【 ランチョンセミナー 】

1. マイクロエンド: ニッケルチタンファイルによる根管治療とCAD/CAMを応用した逆根管治療について

秋田県開業
佐藤暢也

略歴

1985年 北海道大学歯学部卒
秋田県秋田市開業 港町歯科クリニック 院長
日本歯内療法学会 専門医
日本歯内療法学会 理事
米国歯内療法学会(AAE) 国際会員



手術用顕微鏡(以下顕微鏡)は、米国歯内療法医にとって、今や特別に語られることのない必需品となっています。日本においても、顕微鏡を使用した歯内療法(マイクロエンド)が次代の標準となることでしょう。同時に、顕微鏡とリンクして科学的に妥当な歯内療法が求められます。非外科的根管治療では、根管上部から中央部までは、顕微鏡下での拡大可視により著しい効果がありますが、根尖部はもう少し配慮が必要と考えられます。それは、各種研究報告から根尖部根管形成の現実について知り、根管治療を適正に行うことであり、外科的歯内療法の一つである歯根尖切除と逆根管治療の必要理由も含んでおります。

今回のランチョンセミナーでは、そうした点を踏まえて、顕微鏡の選択と設置、記録装置の活用、超音波チップやニッケルチタンファイルの使用、CTガイド(CAD/CAMの応用)などを交えて、根管治療と逆根管治療について、発表いたします。

2. Microsurgery in Implant Therapy

横須賀市開業
千 栄寿 (Eiju Sen)

略歴

神奈川歯科大学歯学部卒業
CID-club (Center of Implant Dentistry)
ITI (International Team for Implantology)
AMED (Academy of Microscope Enhanced Dentistry)
Tokyo SJCD (Society of Japan Clinical Dentistry)
日本口腔インプラント学会



インプラント臨床においては正しいEvidenceの選択と確実な臨床結果の追求が大きな2つの関心事である。この後者を臨床医が実践してゆく上でMicroscopeは有用なDeviceである。さらに、従来から臨床の進歩は研究分野における先人達の努力による科学的なEvidenceの積み重ねと最新鋭医療機器の開発と応用によって後押しをされてきた。Microsurgeryとはマイクロスコープを用いて拡大下で手術をする事と定義される。この視覚強化によって従来からの裸眼下における手術と比較してより正確な手術が達成される事と手術アプローチそのものが新たに考案される可能性が高くなる。

本講演ではインプラント治療において従来から確立された手術方法をMicroscopeを用いる事によりどの様に手術精度が向上するかを中心に報告をする。

3. マイクロ스코ープの基本をマスターして 歯内療法を成功させるための器具とテクニックの解説

日本大学松戸歯学部 助手
小塚 昌宏



略歴

日本大学松戸歯学部卒業
日本大学松戸歯学部 助手
現在に至る
日本歯科保存学会 専門医
日本顕微鏡歯科学会 副事務局長

日本顕微鏡歯科学会は、年々会員数が増加して、現在発足当時の約5倍の人数となっております。会員の先生方から「マイクロ스코ープを用いた基本的なセミナーはありませんか？」とよく聞かれることがあります。今回、このような機会を得ることができましたのでマイクロ스코ープを使用した治療の基本からお話しします。

まず、マイクロ스코ープの使用前に欠かすことができない視度調整、眼幅調整について解説します。顕微鏡酔いをなくすためには必要なことです。次に、根管治療において、根管拡大、感染歯質等の除去を行うには長時間を要することが多く、そのため悪いポジショニングで治療を行うと腰痛、眼精疲労等を引き起こしてしまいます。そこで、これらを防止し、根管内を直視しながら治療を行い、正しい姿勢を維持するためには、適切なポジショニングとミラーの使用法が重要となります。また、チェアとマイクロ스코ープとの位置関係についての問題点について解説します。診療室の広さによってマイクロ스코ープの設置位置に問題が生ずることがあります。最後に、根管治療では、どのような器具を使用すればマイクロ스코ープ視野を妨げず、より効率的に根管治療ができるかについて、実際の映像を交えて解説します。

解説に使用するマイクロ스코ープは、Bright Vision® LED (PENTORON® JAPAN INC.) を使用させていただきます。